

平成30年度

# 住民懇談会

**「景観」**  
をテーマに  
開催！

みなさんと顔を合わせて話しあい、考えあう住民懇談会。今年度は「景観」をテーマに町内3施設で開催しました。懇談会の内容の一部を抜粋してお知らせします。  
今回の懇談会では、名城大学教授 かいどうきよのぶ 海道清信氏を招き、東浦町の景観についてお話ししていただきました。

全内容は、町ホームページに掲載しています。



## 「景観」に対する取り組み

東浦町では、平成28年度に東浦町景観計画を策定し、平成29年度に東浦町景観条例を施行しました。東浦町景観計画の中では、4つの重点区域候補地区を定めています。

これらの「景観」は、東浦町がもともと持っている資源です。これらを「守り、活かし、創る」ことで、誇りや生きがいのある暮らしの空間が生まれ、ひいては東浦の価値の向上にもつながります。

「明德寺川を軸とする《根》と《狭間》の景観(明德寺川周辺)



「郷中のまち並み」の景観(生路)



重点区域  
候補地区



「屋敷のまち並み」の景観(緒川)



「ぶどう畑」の景観(森岡)

文化センター(12月15日)

**参加者** 屋敷の黒壁の家屋が減ってきています。古いものがなくなってきたことを寂しく感じています。

**町** 地域の方々には、黒板塀の代わりに、黒いフェンスを設置していただくなど、ご協力をいただいています。今後、黒壁をどのように保護していくか、行政だけでなく住民の方と一緒に考えていきたいです。

**参加者** 目標とする景観の具体的なモデルをつくるべきだと思います。行動を起こしたくても、目指す方向が分かりません。

**町長** 今後は、みなさん全員が目指す景観の共通イメージをもてるようにしたいと思っています。それには、景観に加えて防災面も充足させる方法を考えるなど、知恵を出しあって、合意形成を行っていきたいです。

**参加者** 於大まつりの前に、黄色い花が明德寺川の護岸に咲いていて、八重桜とのコラボレーションが素敵でした。しかし、後日丁寧に刈り取られていました。清掃、すなわち、きれいにするということが、景観を台無しにするともあると感じました。

**町長** 草刈りの際に、特定の花だけを残して雑草を刈ることは難しいので、作業している方を責めることはできませんが、少くらい遊び心があってもよかったかもしれません。



**参加者A** ぶどう畑の景観といえば、ネットや棚の形の話になると思いますが、まずは、ぶどう農家が減っているという現状に目を向けるべきではないでしょうか。

**参加者B** ぶどう農家でない私たちも、ぶどう畑の手伝いがしたいと思っています。自然環境学習の森の竹の廃材を利用して、みんなで柵を作るのはどうでしょうか。

**参加者C** 柵は、盗難防止目的で設置しています。竹の柵ですと、すぐに劣化してしまうかもしれません。現在、昔の木製の電柱を柵として使用していますが、防腐剤が染み込ませてあるので、数十年持ちます。

**町長** ぶどうの柵は、文化的景観とすることができるとは思いますが、また、夢のような話ですが、地域でぶどうを盗むことができないような雰囲気作りができれば、柵が必要なくなるかもしれません。



**参加者A** 武豊線の車窓から眺める景色が好きです。斜面に家が並んでいる景観を見ながら、毎日電車に乗っています。

**参加者B** 中町交差点から南東を見下ろす景色は、空が広いように感じ、晴れた日は特にきれいです。

**町長** 私も、中町から見る風景や、武豊線で石ヶ瀬川を渡る時の夕日がきれいだと思います。自分の好きなシーンを切り取って、都市計画だけでなく、福祉や農業など様々な要素とリンクさせ、みなさんと共に景観をつくってきたいです。



**参加者** 景観を大切に、まち並みを昔のまま保存するのはいいことだと思いますが、郷中は道が細く、防災面が心配です。

**海道教授** 東京都墨田区では、路地に木造の住宅が密集しています。道を広げずに防災機能を上げるため、路地尊という広場が設置され、お地蔵さんのようなシンボルとなっています。その広場は、井戸があったり、避難場所となったりします。



**参加者** 森井戸には、ヤマトタケルノミコトにちなんだ伝説がありますが、今では世帯の減少が進み、地域で保護することが大変です。

**海道教授** 学生を集めて、森井戸を掘ってみてはどうでしょうか。

**町** 海道先生からご提案をいただいたような景観を向上させる活動として、町では、景観まちづくり共感プロジェクトを行っています。先日、石浜の藤塚公園の枝払いをして、地域のみなさんとよい景観をつくりました。

**海道教授** 生路の路地に名前をつけてみたらどうでしょうか。路地にはその地区の歴史が詰まっています。名前をつけることで、歴史を次の世代につなげることができます。

**町長** 神後院の坂には、「伊久<sup>いく</sup>神坂<sup>しんざか</sup>」という愛称がつけられました。生路には歴史の名残がたくさんあるので、古いものを大事にしながら、新しいものをつくっていくといいと思っています。